



## [趣旨説明]

異文化コミュニケーション学部教授、  
前日本語教育センター長  
丸山 千歌 氏

○**丸山** 日本語教育センター、センター員の丸山でございます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。本日の趣旨説明を私からさせていただきます。よろしくお願いいたします。**【スライド①-1】**

本日は、「社会・コミュニティを変える力とは？ 21世紀の日本をけん引する立教型グローバル人材育成を日本語教育の視点から考える」という企画でございます。本企画の趣旨にかかわるキーワードをタイトルから引っ張ってご紹介しますと、立教型グローバル人材育成とは一体どのようなものか。それと日本語教育というのがどのように関係しているのか。それが組み合わさるような社会、コミュニティを変える力になっていくのか。そういったことを考えることになると思っております。**【スライド①-2】**

大学の国際化は、派遣と受入れの促進が大切な要素になります。私事で恐縮ですが、私が日本語教師として働きはじめたのは、ちょうど国立大学を中心に交換留学が活発になってきた時期でした。1995年ごろなのですが、そのころは派遣と受け入れをしっかりとやっていたという動きが日本の国内の大学で強まってきました。が、同時に一体何のためにということについて議論もあったと思います。このような考えが深まっていく中で出てきているのがグローバル人材の育成だと思えます。では、グローバル人材育成とはどういうことかという話になりますが、それは、本日の松井先生のご講演の中でお話が聞けると思います。

グローバル人材というのが、送り出す、それから受け入れる、そういった仕掛けだけで育っていくのかということを少し考えてみたいと思います。もう20年ほど前、今もすごく張り切って仕事をしているのですが、当時とても張

り切って日本語のクラスをやっておりまして、その頃の話です。日本語の授業の中で、留学生がたくさん日本語の練習をして、たくさん学生たちが話す。授業が終わって教室の外を一緒に歩いていて、学生に、先生の日本語のクラスではものすごく日本語を話すけど、実は自分が日本語を話す時間というのは日本語のクラスだけなんだということを言われました。教室の外に出ると、留学生は留学生だけで固まって、実は自分の母国語で話すということをしていると。この話を聞いたときに、私の仕事は、留学生がキャンパスの中で、それから日本の社会の中で、たくさん日本語を使って、日本の社会の中に入っていく。日本人の母語の学生たちともたくさんやり取りをする。そういった中で、いろいろ学び、相互に育っていく。そういうことのために自分が仕事をしているのに、現実是这样なことなんだと思ったのが、20年くらい前のお話です。【スライド①-3】

10年ほど前に立教に来まして、立教の中で働くときには、そのことをときどき思い出して、そのような状況を変えていくために、日本語からできるアプローチとはどういったことなのかということを考えて過ごしております。ですので日本語教育センターの活動というのは、もちろん留学生が日本語力を伸ばすということが主眼にありますけれども、それだけではなくて、大学が国際化し、留学生がいて、留学生がたくさん学んで、その中で日本語母語の学生もたくさん、彼ら、彼女らから学んで育っていく、そういった環境にしていきたいと思って、池田先生やセンターの先生方と一緒に取り組んでおります。

今ご覧いただいているスライドにある取り組みは、日本語教育センターだけがやっているということではなくて、大学にこういった一つ一つの取り組みの意義を理解していただき、学部の先生方に理解していただき、センター運営会議の先生方にサポートしていただきながら、一つ一つ形になり、育ってきている取り組みでございます。

2012年に開始した立教大学留学生による日本語スピーチコンテスト、これは立教の日本語教育センターができて1年のところの話ですが、こちらは卒業生、校友の方々に支えられてずっとできているスピーチコンテストでございます。それから同年には、当時は中級日本語と呼んでいましたけれども、レベルが複合型のクラスです。そこでTAを導入しました。

2016年度からは大学のTGUの、大型の国際化の事業がありまして、その流れの中で、短期日本語プログラムが始まりました。この中にも、日本人の学生さ

んにたくさん入ってもらうことを試みております。

2020 年度からは全学共通カリキュラムの総合系の科目で、国際的協働のための国内インターンシップという科目をつくりました。主な対象は留学生なんですけれども、日本人の学生も履修できます。卒業後、日本の社会とつながって生きていくということを考えるときに、その最初の経験として、感触を見て、その経験を通して、どんなふうに自分がその先、立教の中で学んでいったらいいのか、どんな努力をしたらいいのか、どんな工夫をしたらいいのかを考えてつくった科目でございます。

2022 年度、今年度は日本語相談室という事業があるのですが、そこに学生サポーターが入る。それからもう一つ、先ほどご紹介した全学共通カリキュラム、総合系の科目として、「多文化共生社会と日本 ― やさしい日本語とともに学び、ともに生きる ―」、こういった科目を新設します。**【スライド①-4】**

こちらのスライドは日本語教育センターのホームページのトップページの画像ですけれども、今ご紹介した取り組みを赤で囲んでみました。このような形で関わってきております。日本語教育センターの授業が、もちろん留学生の日本語を伸ばすということに注力しておりますが、その中で、今ご紹介したように、日本人の学生が、小さく、ときにはしっかりと留学生と関わる機会をつくってきました。**【スライド①-5】**

こちらについて少しご紹介したいと思います。こちらのスライドはスピーチコンテストですね。今日、画面の右側には昨年度の優勝者たちの動画が見られるようになっているのですが、横長になっているところに、スピーチアドバイザー、実行委員からのメッセージがあります。日本語教育センターのスピーチコンテストは、留学生がスピーチをするのですが、スピーチを準備するときに学生アドバイザーがつき、一緒にトピックを考えたり、練習をしたりといったことをします。また当日の運営も学生が中心になって行います。学生たちは自分たちのいろいろな可能性を感じることができる時間を過ごしまして、1 回やったらその次の年、またその次の年もやってくれる学生さんが多くございます。その学生たちが語ってくれたストーリーというのが、こういったページに収められています。

今日もパネルディスカッションで登壇してくれる学生さんの 1 人は、このスピーチコンテストの実行委員経験者の 1 人です。**【スライド①-6】**

こちらはティーチングアシスタントの話です。2012 年から 2014 年度まで、

立教大学の教育活動推進助成を受けまして、この中で、日本語のいくつかのクラスをレベルを合わせた形で、上の学生は下の学生に教えてあげる。下のレベルの学生は上の学生からも教えてもらうという、協働の学びも経験することができる科目です。また、TA を活用してクラスを展開するといった取り組みでございました。右上にあるのがそのときの、当時の報告書ですけれども、この発表をしたときは松井先生が司会をなさっており、日本語教育センターの取り組みを聞いてくださいました。

この報告書には、「日本語科目における TA の活用の可能性と課題」というトピックで、日本語教育センターのメンバー、それから TA の学生と一緒にディスカッションをした記録が入っています。ここにいらっしゃる藤田先生もパネリストとして登場し、TA を育てることについてご報告くださいましたし、下にある西内さん、それから三浦さんは、当時は学生で、TA として頑張っていましたけれども、現在はめでたく卒業し、現役の日本語教員として活躍しています。

この TA の取り組みについては、本日のパネルディスカッションでは益本さんがこの経験をしておりまして、TA を通じてどのような力を得たかということを報告してくれます。**【スライド①-7】**

先ほど、2016 年度からは短期プログラムを開始しましたというお話をしました。こちらは 1 週間、または 3 週間の短い期間に、協定校の学生さんが日本語を学ぶといったものですが、それでも、「日本文化社会講義」という科目がありまして、学部の先生方が英語でレクチャーをしてくださいます。今日いらっしゃる杜先生、それから韓先生もこの授業をしてくださいます。フィールドトリップにも連れて行ってくださいました。杜先生のお写真もありますね。川越に行ってくださいったときのお写真です。これは学生たちが先生からレクチャーを受けるだけではなく、フィールドトリップに出かけるのですが、そのレクチャーやフィールドトリップで立教の学生たちともたくさん交流をいたします。その交流をするところに学生たちが参加しているのですが、その参加してくれた学生さんの 1 人として、今日は小西さんがパネルディスカッションで登場します。**【スライド①-8】**

こちらは先ほどご紹介した全カリ総合系の科目、2020 年度から 1 つ、それから 2022 年度からはもう一つ追加して、新しく開講しておりますが、こちらについては、今日は池田先生がお話しをしてくださると思っております。**【スラ**

## イド①-9]

もう一つ、今年度、日本語相談室の新しい取り組みとして、学生アドバイザーというのを導入しています。こちらホームページでご覧いただけるチラシなのですが、ポイント、2012年度につくったときから、今までずっと日本語教育センターの先生が相談に乗るという形を取っており、今年度より学生アドバイザーが相談に乗る、そういった仕組みを作ったことです。【スライド①-10】これは、このような仕掛けになっています。図は、日本語教育センターの任先生、小松先生がつくってくださったものですが、事前研修や、それから中間の研修をしながら、学生の日本語学習支援をしていく中で、グローバルコンピテンスを身につけることを目指していることがわかります。これはみっちりコースの取り組みとなります。【スライド①-11】

今ご紹介いたしましたように、日本語教育センターで取り組んでいる様々な活動に日本人の学生たちが関わっているのですが、ちょっと関わるというものから、こちらの学生アドバイザーのようにみっちりコースのものまで様々ございます。こういったいろいろなレベルの関わりを通して、学生たちが自分たちのペースでグローバルコンピテンスを身につけ、そしてグローバル人材に育ってもらえるといいなと思っているところです。

まとめになりますけれども、本日のお話はこのような形になります。グローバル人材のお話につきまして、まず大きな目で、大学が掲げている国際化という視点で、松井先生が、新しいグローバル・リーダーの育成についてお話をしてください。

次に、日本語のほうに目を移しまして、今ご紹介してきたような取り組みの中で、実際に TA をやったり、スピーチコンテストに関わったり、それから短期日本語プログラムに参加した学生さん、それから卒業生の方が登壇してくれます。その学生の現場の声、生の声をまとめてくださるのが、先ほどご紹介いたしました国際的協働のための国内インターンシップと一緒につくってくださっている株式会社 Sociarise の中村様です。今日はコメンテーターもお務めくださるのですが、その中でたくさんの日本語教育センターと共通する思いもお話しただけというふうに思っております。

こういった話を受けて、日本語教育センター長の池田先生から、キャンパスを共創の場ということで、日本語教育センターが大学の国際化のためにどういっ

たことができるのかということをお話くださる。そのような構成となっております。**【スライド①-12】**

私からの趣旨説明は以上でございます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

○**鹿目** 丸山先生、ありがとうございました。

## 【スライド①-1】

社会・コミュニティを変える力とは？  
—21世紀の日本をけん引する立教型グローバル  
人材育成を日本語教育の視点から考える—  
趣旨説明

立教大学日本語教育センターシンポジウム2022

2022年7月9日

立教大学 日本語教育センター員・異文化コミュニケーション学部教授  
丸山千歌

## 【スライド①-2】

本企画のキーワード

立教型グローバル人材育成  
日本語教育

⇒ 社会・コミュニティを変える力

【スライド①-3】

## 大学の国際化

- ・派遣・受け入れの促進

何のために？

- ・グローバル人材の育成

「送り出す・受け入れる」という仕掛けだけで育つのか  
20年ほど前… ⇒ 今は？  
「日本語」からアプローチできることは？

【スライド①-4】

## 日本人学生が関わる日本語教育センターの活動

- 2012年度～ 立教大学留学生による日本語スピーチコンテスト  
～東京セントポールライオンズクラブ杯～
- 2012年度～ 総合日本語4-6 TA導入
- 2016年度～ 短期日本語プログラム開始
- 2020年度～ 全学共通カリキュラム総合系「国際的協働のための  
国内インターンシップ」
- 2022年度～ 日本語相談室 学生サポーター
- 2022年度～ 全学共通カリキュラム総合系「多文化共生社会と日本  
ーやさしい日本語でともに学び、ともに生きるー」



## 【スライド①-5】



## 【スライド①-6】

## 立教大学留学生による日本語スピーチコンテスト ～東京セントポールライオンズクラブ杯～ (2012年度～)



## 【スライド①-7】


**ティーチング・アシスタント**  
 (2012～2014年度 立教大学教育活動推進助成)  
 立教日本語教育実践学会パネルセッション  
 「日本語科目におけるT.A.の活用の可能性と課題」 2014年9月17日

学習者の多様性を生かした日本語授業のデザイン—「中級日本語」の新設とTAの活用—  
 丸山千歌 (日本語教育センター長)

日本語教育を通して世界を豊かに！ 異文化コミュニケーション学部・研究科の日本語教員養成が目指すもの  
 池田伸子 (前日本語教育センター長)

2014年度からの中級日本語担当者として 藤田恵 (日本語教育センター長)  
 中級B・DにおけるT.A.の役割 谷啓子 (日本語教育センター長)

ビリーフからみる自己成長—TAとしての授業参加の意義—  
 西内紗江 (異文化コミュニケーション研究科言語専攻 博士課程前期2年)  
 前期を終えてのTAの振り返り および後期への実践研究の展望  
 三浦綾乃 (異文化コミュニケーション研究科言語専攻 博士課程前期1年)



当時はTA  
 今は日本語教員として活躍中！

## 【スライド①-8】

**短期日本語プログラム (2016年度～)**

**Lectures on Japanese Culture and Society**

The lectures offer the opportunity to learn and come in touch with Japanese culture and society. Field trips are held, and each trip is preceded by a lecture given by our professors. Each lecture provides the background knowledge and information before the students participate in a particular field trip.



Field Trip: Tower of Tokyo  
 Field Trip: Tower of Tokyo



Preservation and Tourism of Traditional Streets in Japan - Kenjutsu



Japanese Sports Meet - Top of War




Visiting and Experience Rikkyo University Sports Club - Japanese Archery





【スライド①-10】

## 日本語相談室

### Japanese Language Support Desk



## 2022年度～ 学生アドバイザー の導入

日本語を母語としない学生の日本語学習をサポート！

日本語教育を専門とする教員や学生アドバイザーが日本語についての相談を受け付けています。

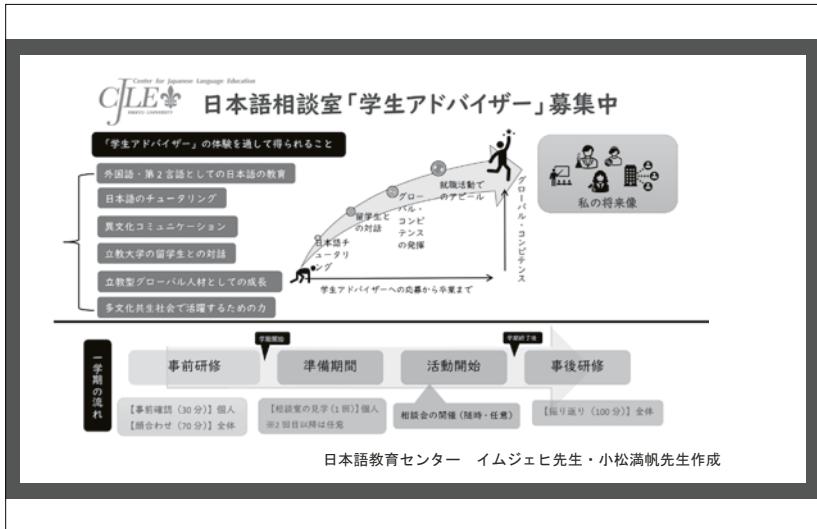
### 相談できる内容

- (1) 日本人と一緒に授業を受けている  
正課科目のレポート
- (2) 日本人と一緒に授業を受けている  
正課科目の発表

### NEW！ 学生アドバイザー

学部生対象のサポートです。  
左記(1)と(2)の相談を  
することができます。オンラ  
インでの相談となります。

## 【スライド①-11】



## 【スライド①-12】

## グローバル人材育成への日本語からのアプローチ

- ①立教大学が目指す国際化—「新しい」グローバル・リーダーの育成  
(国際化推進機構長、法学部教授 松井秀征先生)
- ②在校生・卒業生によるパネル・ディスカッション  
(ファシリテーション：株式会社Sociarise代表 中村拓海氏)  
TA・スピーチコンテスト・短期日本語プログラム
- ③キャンパスを“協創”の場に！  
日本語教育センターは大学の国際化のために何ができるのか  
(日本語教育センター長、異文化コミュニケーション学部教授 池田伸子先生)  
国際的協働のための国内インターンシップ
- ④ 全体討議  
(コメンテーター：株式会社Sociarise代表 中村拓海氏)